

ぎないものは論文原稿として採用しない場合がある。

6. 講演論文集 「鉄と鋼」第51年9月号として刊行いたします。講演申込が多数の場合、10月号も講演論文集として刊行いたします。

7. 講演用ビラ・スライド 講演会場掲示の図面の寸法は横1.2m以内とします。(掲示は2カ所)、スライドは35mm版に限ります。スライドの作成は下記基準を参照のこと。

スライド作成基準

1. 講演会場におけるスライド映写はスクリーンから7~10m.の距離から映写するので、画面が鮮明に読みとれるように作成すること。
2. スライドの大きさは35mm判とし、原稿の作成はA4判またはB5判の白紙を用いること。
3. 原稿作成の際に文字の大きさは、数字、ローマ字などは8mm角、線は巾1mm、○×などの記号は3mm、・、などは1~2mm程度に書くことが適当である。  
タイプライター使用の場合は、文字の大きさに比して図の大きさを決めること。
4. 原稿の書き方は「鉄と鋼」原稿に準ずるものとする。
5. スライドには講演番号、講演者名、映写順序を明記すること。
6. スライド数は1講演時間を20分とした場合10~13枚程度が適当である。

8. 原稿用紙 協会所定の原稿用紙は1冊30枚綴30円で頒布いたします。送料は下記の通りです。

1部 20円, 2部 40円, 3部 60円  
4部 80円, 5部 90円, 6部 100円

## 「鉄と鋼」講演論文寄稿規程

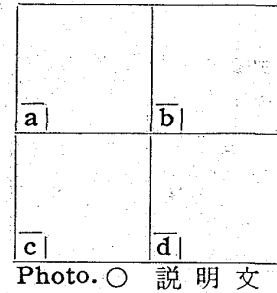
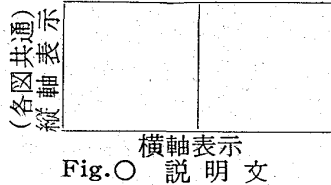
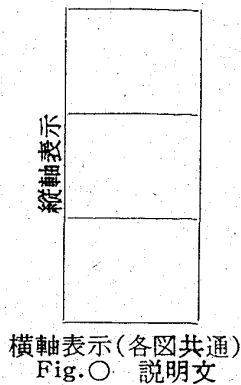
講演論文は本協会会員が本協会講演大会においてその研究結果を発表するために、その講演大会で発表する予定の研究結果を講演論文としてあらかじめ協会に提出し、講演論文集に掲載されるものである。講演論文の内容は著者の独創的研究結果で、少なくとも研究目的、研究方法、研究結果が正確に記述されているものとし、講演論文の長さは、図・写真・表を含んで本協会所定の原稿用紙8枚以上16枚まで、図・写真はあわせて5枚以内として、規程の締切日までに提出しなければならない。

- (1) 講演論文は、本誌に載せる前にほかの学協会の講演会において発表されないものに限る。
- (2) 講演論文は、年2回(春、秋)開催される本協会講演大会において発表する予定の研究結果をまとめ、本協会によりそのつど定める期限内に協会へ提出されるものとする。
- (3) 講演論文の内容は著者の独創的寄与を主体とするもので、少なくとも研究目的、研究方法、研究結果が明確に記述されているものとする。内容が豊富な場合には、第1報、第2報の分割形式としてもよい。
- (4) 原稿の表紙および原稿用紙は本協会所定のものを用いる。原稿の表紙には所定事項を確実に記入し、原稿は左横書きとする。
- (5) 平易な口語体を用い、漢字は特殊な専門用語のほかは当用漢字を用い、かなは新かなづかい(第4表の例を参照)によること。
- (6) 講演論文には必ず英文題目、100語以内の英文要旨、英文要旨の和訳文を添付する。英文要旨は編集委員会で審査の結果、Tetsu-to-Hagané Overseasに掲載されることがあるので、それによつて主要成果がわかる程度に書かれていること。
- (7) 講演論文の原稿の長さは、図・写真・表を含んで本協会所定の原稿用紙8枚以上16枚までの範囲内に限定し、図および写真はあわせて5枚以内とする。図および写真の占める面積については、下記の(15)項を参考にして正しく算定し、原稿枚数が規定外にならないようにする。また同一の事項を図・表両方で表わさないこと。
- (8) 文章には、最も読みやすくするために句点(,)および終止点(.)を適当に付ける。いずれの場合にも原稿用紙の1こまをあてる。
- (9) 数量を表わす場合にはアラビア数字を用い、単位は原則としてCGS単位系を用いるが、電磁気量の場合にはMKS単位系を用いてよい。単位の略記号は第1表の例に従う。周知でない単位には略記号を用いないこと。
- (10) 外国語の固有名詞および訳語が確定していない外国語の術語は原則として原語で書くが、周知のものはかたかな書きとする。なお必要な場合は原語を書き添える。元素名、合金名、化合物名はなるべく化学記号によつて示すが、周知の合金名、化合物名は化学記号表示を行なう必要はない。(第2表の例参照)
- (11) 英字、数字、ギリシャ文字はていねいに記し、混同しやすい文字はとくに注意して書くこと。英字の大文字、小文字、ギリシャ文字で混同しやすい文字はとくに赤字でⒶ, Ⓑ, Ⓒなどと傍記する。ゴチック、イタリックを指定するときは、その文字の下にそれぞれ——, ~~~~を付けること。添字の上ツキ、下ツキは正確に記すこと。
- (12) 数式は印刷に便利のように注意し、 $b/a$ ,  $(a+b)/c$ のように、不明確にならない程度になるべし少ない行数で表わすように書く。
- (13) 表はなるべく本文中に挿入すること。1つの表の大きさは、会誌の1ページの面積を考慮し、横の刷り上がり寸法7cmまたは14.5cm、縦の刷り上がり寸法18cm以内におさまるようにする。
- (14) 図・写真・表の説明は英文とする。写真には必ず倍率を記入する。
- (15) 図および写真は、横の刷り上がり寸法が下記のいずれかの寸法となるように、刷り上がり寸法の2~3倍大とし、下記の縮尺記号を記入しておくこと。

(イ) 横7cm(縮尺A). (ロ) 横14.5cm(縮尺B)

刷り上がり後の縦の寸法は18cm以内とする。

図および写真の横の縮尺が上記のように定まれば、縦の刷り上がり寸法も定められるから、図および写真の占める面積を算出し、下記の規準に従つてその面積に相当する字数を求め、原稿の長さが本規程(7)の範囲外にならないようにする。



縮尺Aの場合、刷り上がり面積  $42 \text{ cm}^2$  は 400 字，すなわち所定原稿用紙 1 枚に相当する。

縮尺Bの場合、刷り上がり面積  $87 \text{ cm}^2$  は 800 字，すなわち所定原稿用紙 2 枚に相当する。

図および写真を並列して 1 個に取り扱うことができるのは、下記の数例の場合に限る。

図は白紙，オイルペーパー，または青色方眼紙を用いて書き，図および図中の文字は縮尺を考慮して十分な大きさおよび間隔をもつて正確に書くこと。

- (16) 図および写真は散逸を防ぐため，原稿用紙または適当な大きさの台紙に貼付し，右下隅に著者名を記入すること。図・写真は原稿本文中に挿入せず別紙とし，原稿中には右欄外にその挿入箇所を指定する。原稿本文中に図・写真挿入箇所を空白にあげないこと。

- (17) 参考文献は，通し番号を付け，本文の最後一括して番号順に示し，本文中における文献引用箇所にはその文献の番号（かつこ付き）を上つき小数字で示す。

参考文献は著者名：雑誌名，巻数（発行年度），号数，ページ数の順に記載すること。

（例） R. K. GLASS: Blast Furn. & Steel Plant, 46 (1958), 2, p. 198~204

雑誌名は第 3 表の略記例に従う。単行書は，著者名：書名，（発行年度），ページ数，[出版社名]の順に記載する。

第 2 報以後の講演論文には必ずその前報を参考文献として示すこと。

- (18) 寄稿された講演論文の受理年月日は，本協会が定めた講演論文原稿締切日とする。

- (19) 寄稿講演論文は編集委員会において審査される。下記の各項のいずれかに該当するものは受理されない。

(a) 学術および技術への寄与がほとんど無いと考えられる場合

(b) 著者の独創的寄与がほとんど含まれていない場合

(c) その講演論文に直接関連するほかの重要な研究論文を参考文献として示していない場合

(d) 寄稿規程の (6), (7), (15), に確実に従っていない場合およびそのほかの規定に著しく違反する場合

(e) 内容に顕著な誤りが含まれている場合

また編集委員会において，内容の一部を修正，削除することがある。

- (20) 支部講演会における発表は，講演論文の形では受理しないので，早期の誌上発表を希望するときは研究速報の形式で原稿を提出すること。

- (21) 講演論文の原稿は返却しない。また講演論文の別刷の印刷は行なわない。

第1表 単位およびその記号の例

量	単位の名称	単位記号	量	単位の名称	単位記号	
角 度	ラジアン	rad	工 率 動 力	キロワット	kW	
	度	.....°		ワット	W	
	分	.....'		エルグ毎秒	erg/sec	
	秒	.....''	英馬力	HP		
長 さ	キロメートル	km	温 度	セツ氏温度	.....°C	
	メートル	m		絶対温度	.....°K	
	センチメートル	cm	熱 量	ジュール	Joule, (J)	
	ミリメートル	mm		キロカロリー	kcal	
	ミクロン	μ		カロリー	cal	
	オングストローム	Å		熱伝導度	カロリー毎秒センチメートル度	cal/(sec. cm. deg)
キロX線単位	kX	ジュール毎キログラム度	Joule/(kg·deg)			
面 積	平方メートル	m <sup>2</sup>	カロリー毎グラム度	cal/g·deg		
	平方センチメートル	cm <sup>2</sup>	熱 容 量	ジュール毎度	Joule/deg	
	平方ミリメートル	mm <sup>2</sup>		電 流	アンペア	A
体 積	立方メートル	m <sup>3</sup>	ミリアンペア		mA	
	立方センチメートル	cm <sup>3</sup> , cc	電 流 密 度		アンペア毎平方メートル	A/m <sup>2</sup>
	立方ミリメートル	mm <sup>3</sup>		電界の強さ	ボルト毎メートル	V/m
	キロリットル	kl	電 起 電 圧 力	キロボルト	kV	
	リットル	l		ボルト	V	
ミリリットル	ml	ミリボルト		mV		
時 間	年	year(年)	電 気 容 量	ファラッド	Farad, (F)	
	日	day(日)		電 気 抵 抗	オーム	Ω
	時	hr	マイクロオーム		μΩ	
	分	min	コンダクタンス	モ	Ω	
秒	sec	インダクタンス		ヘンリー	Henry, (H)	
毎分回転数	回毎分	rpm	電 力	キロワット	kW	
速 度	キロメートル毎時	km/hr		ワット	W	
	センチメートル毎秒	cm/sec	磁界の強さ	エルステット	Oe	
	メートル毎分	m/min		アンペア毎メートル	A/m	
加 速 度	センチメートル毎秒毎秒	cm/sec <sup>2</sup>	磁 束	ウェーバ	Wb	
	周 振 波 動 数 数	サイクル毎秒		c/sec	マックスウェル	Maxwell, (M)
キロサイクル毎秒		kc/sec	磁 束 密 度	ウェバ毎平方メートル	Wb/m <sup>2</sup>	
メガサイクル毎秒		MC/sec		ガウス	G	
質 量	トン	t	キロガウス	kG		
	キログラム	kg	組 成	容積パーセント	vol%	
	グラム	g		重量パーセント	wt%, %	
密 度	ミリグラム	mg	原子パーセント	at%		
	グラム毎立方センチメートル	g/cm <sup>3</sup>	モル濃度	モル毎リットル	mol/l	
力	ニュートン	N		エ ネ ル ギ ー	仕 事	ジュール
	ダイナグラム	dyn	エルグ			erg
	重量キログラム	kgw	重量キログラム・メートル			kgm
応 力	キログラム毎平方ミリメートル	kg/mm <sup>2</sup>	キロワット時			kWh
	グラム毎平方センチメートル	g/cm <sup>2</sup>				
	バール	bar				
圧 力	ミリバール	mbar				
	気圧	atm				
	水銀柱ミリメートル	mmHg				

## 第2表 論文中の術語の書き方例

- 1) 表題に用いる術語は不明瞭な省略語は用いない。  
 たとえば“……………脱酸, 脱硫作用……………”とし, ……………脱O, 脱S…………”は不可
- 2) 本文にて最初に述べる術語は, 内容の十分理解できる親切な表現を用いること。  
 たとえば“……………生じた Hercynite( $\text{FeO} \cdot \text{Al}_2\text{O}_3$ )は……………”  
 “平衡定数  $K'$ , Gibbs の自由エネルギー  $G$  は……………”  
 “マグネタイト ( $\text{Fe}_3\text{O}_4$ ) を  $\text{N}_2$  を含む  $\text{CO}$  で還元した結果,  $\text{Fe}_3\text{O}_4$  は……………”  
 “シリカ・カプセルをかぶせた低炭素鋼板を管状炉内で加熱したが, ほとんど脱炭しなかった。”
- 3) 本文にて繰返し用いる場合は化学記号, その他のすでに認められた省略記述でよい。  
 たとえば溶鋼中の成分 (無限稀溶液標準の場合) は  $\underline{\text{C}}$ ,  $\underline{\text{O}}$  で表わす  
 “ ” (純液規準の場合) は  $[\text{Ni}]$ ,  $[\text{Fe}]$  など表わす  
 また, たとえば, 文中に「オーステナイト」の語が多数出てくるときは, その最初のところで「オーステナイト( $\gamma$ )」として以下「 $\gamma$ 」を用いてよい。
- 4) 学術技術の進歩とともに日本語訳では十分表現できない言葉が次第に増してきているから, 下記の例のようにカナ書きとして術語を表わす。しかし意味のピッタリした簡明な日本語訳のある場合は慣用に従ってなるべく日本語を書くことを原則とする。次に例を示す。
- |  |  |
|--|--|
| <p>i) カナ書きが妥当と思われるもの</p> <p>ガス, エネルギー, プロパン<br/>       リムド鋼, キルド鋼<br/>       ポテンシャル<br/>       窒化アルミニウム <math>\text{AlN}</math><br/>       ニオブ, タンタル<br/>       グラファイト<br/>       (エレクトロンプロブ) X線マイクロアナライザー<br/>       ベアリング, または軸受<br/>       オーステナイト, フェライト, ベイナイト, インゴット, ピレット, フープ, パス, スケール, ステンレス鋼, クリープ, プレス, ロール, ブルーム, プロローホル, キャンパー, カーボメーター, セメントタイト, 板のクラウン, フェロアロイ, フランジ, ガイド, ジョミニー試験, マクロ腐食, マンドレル, マルテンパー, マルテンサイト, ノッチ, オーバル, ポリゴナイズ, スクラップ, セミキルド鋼, シャー, スラブ, スラッグ, ストリップ, タンデムミル, ビッカース硬さ(硬度計)</p> | <p>備 考</p> <p>日本語になりきっている<br/>       慣用の期間が長く, ピッタリしたよい訳がない<br/>       ピッタリした日本語訳がなく慣用している<br/>       窒化アルミの形は用いない<br/>       または Nb, Ta (通常 Cb は用いない)<br/>       または黒鉛<br/>       略記としては EPMA, XMA などが慣用<br/>       “メタル”は不可 (混同しやすい)</p> |
|--|--|
- 鉄冶金慣用語の例
- ii) 原語を一度書き添えることが妥当だと思われるもの
- |  |   |
|--|---|
| <p>フォーミング(foaming)<br/>       パージング(purging)<br/>       フラッターリング(fluttering)<br/>       スカルピング(scalping)</p> | <p>フォーミングは forming もあり混同することもある</p> <p>日本語に十分慣用されていない</p> |
|--|---|
- iii) 省略的記述の例
- |  |  |
|--|--|
| <p>78Ni-22Fe 合金<br/>       Ni-Cr-Mo 肌焼鋼<br/>       Ferro-Si-Zr<br/>       5% nital, picral など<br/>       JIS-SUS 31<br/>       U.S. Pat. 1,932,566<br/>       Hb 100, Hrc 50<br/> <math>\text{HNO}_3</math> (5%)</p> | <p>18-8ステンレス鋼の場合は慣用によつて Cr, Ni 省略</p> <p>フェロアロイの場合を表わす<br/>       化学記号表示の必要はない<br/>       AISI, DIN, En その他同様<br/>       米国の慣例による<br/>       プリネル, ロックウェルC硬度値<br/>       分析の場合など“硝酸水溶液”に慣用</p> |
|--|--|

### 第3表 文 献 略 記 例

雜誌名	略記	雜誌名	略記
Acta Metallurgica	Acta Met.	Journal of the Iron and Steel Institute	J. Iron & Steel Inst.(U.K).
American Foundrymen's Society, Preprint	Amer. Foundrym., Preprint	Journal of Metals	J. Metals
American Institute of Mining, Metallurgical and Petroleum Engineers,		Les Mémoires Scientifiques de la Revue de Métallurgie	Mém. Scient., Rev. Mét.
- Blast Furnacé, Coke Oven & Raw Materials Committee, Proceedings	Proc. Blast Furn.	Metal Finishing	Metal Finishing
- The Electric Furnace Committee, Proceedings	Proc. Electr. Furn.	Metal Finishing Journal	Metal Finishing J.
- National Open-Hearth Steel Committee, Proceedings	Proc. Open-Hearth	Metal Progress	Metal Progress
American Iron and Steel Institute,	Amer. Iron & Steel Inst.	Metal Treating	Metal Treating
- Annual Statistical Report	- , Ann. Stat. Rep.	Metaloberfläche	Metalloberfläche
- Contribution to the Metallurgy of Steel	- , Cont. Met. Steel	Metallurgia	Metallurgia
American Society for Metals, Preprint	Amer. Soc. Metals, Preprint	Metallurgia Italiana	Met. Ital.
American Society for Testing Materials,	Amer. Soc. Test. Mat.,	Métallurgie et la Construction Mécanique	Mét. et Constr. Mécan.
- Preprint	- , Preprint	Modern Castings	Mod. Castings
- Special Technical Publication	- , Spe. Tech. Pub.	Revue de Métallurgie	Rev. Mét.
Archiv für das Eisenhüttenwesen	Arch. Eisenhüttenw.	Schweissen und Schneiden	Schweissen u. Schneiden
Blast Furnace and Steel Plant	Blast Furn. & Steel Plant	Sheet Metal Industries	Sheet Metal Ind.
British Iron and Steel Research Association, Reports	Brit. Iron & Steel Res. Assoc., Rep.	Stahl und Eisen	Stahl u. Eisen
British Welding Journal	Brit. Welding J.	Stal	Stal
Centre de Documentation Sidérurgie, Circulaires d'Informations Techniques	Centre Doc. Sidér., Circ. Inform. Tech.	Steel	Steel
Corrosion	Corrosion	Steel Processing	Steel Process.
Foundry	Foundry	Transactions of the Metallurgical Society, American Institute of Mining, Metallurgical & Petroleum Engineers	Trans. Met. Soc., Amer. Inst. Min., Met. & Pet. Eng.
Foundry Trade Journal	Foundry Trade J.	Transactions of the American Society for Metals	Trans. Amer. Soc. Metals
Giesserei	Giesserei	Transactions of the Institute of Metal Finishing	Trans. Inst. Metal Finishing
Iron Age	Iron Age	Transactions of the Institution of Mining and Metallurgy	Trans. Instn. Min. & Met.
Iron and Coal Trades Review	Iron & Coal Trades Rev.	Transactions of the Society of Automotive Engineers	Trans. Soc. Auto. Eng.
Iron and Steel	Iron & Steel	United States Bureau of Mines, - Bulletin	U. S. Bur. Mines, - , Bull.
Iron and Steel Engineer	Iron & Steel Eng.	- Information Circular	- , Inf. Circ.
Iron and Steel Institute, Special Reports	Iron & Steel Inst., Spec. Rep. (U. K.)	- Mineral Industry Survey	- , Miner. Ind. Survey
Jernkontrets Annaler	Jernkont. Ann.	- Minerals Yearbook	- , Miner. Yearbook
Journal of the Institute of Metals	J. Inst. Metals	- Report of Investigations	- , Rep. Invest.
		Welding Journal	Welding J.
		Werkstoffe und Korrosion	Werkstoffe u. Korrosion
		Wire and Wire Products	Wire & Wire Products
		Zeitschrift für Metallkunde	Z. Metallkunde

### 第4表 かながきの例

可	不可	可	不可	可	不可	可	不可
明らか	明か	かりに	仮に	それぞれ	夫々	ほかに	外に, 他に
あたかも	恰も	きわめて	極めて	ただ	唯	ほとんど	殆ど
扱う	扱かう	……くらい	……位	ただし	但し	ほど	程
あらかじめ	予め	ここ	此所, 茲	たとえば	例えば	ほぼ	略々
表わす	表す	……こと	……事	ため	為	ますます	益々
ある	在る, 有る	異なる	異なる	だいたい	大体	また	又, 亦
あるいは	或は	ことに	殊に	ちなみに	因みに	まだ	未だ
(と)いう	(と)言う	これ, この	之, 此の	ちょうど	丁度	まちがい	間違い
いかなる	如何なる	ごとく	如く	ついて	就て, 付いて	まで	迄
いずれ	何れ, いづれ	ごとに	毎に	ついに	遂に	みなす	見做す
いつそう	一層	さしつかえ	差支へ	(の)とおり	(の)通り	(して)みる	(して)見る
(して)	(して)	ささえる	支える	(する)とき	(する)時	向かう	向う
いただく	頂く, 載く	しかし	併し, 然し	……ところ	……所, 処	明りよう	明瞭
いつたん	一旦	しかも	而も, 然も	伴う	伴なう	もし	若し
(して)いる	(して)居る	したがって	従て……	ともに	共に	もちろん	勿論
いわゆる	所謂	……に従う	…にしたがう	ないし	乃至	…(し)やすい	…(し)易い
おいて	於て	しだいに	次第に	なお	尚, 猶	やはり	矢張り
おそい	遅い	しばしば	屢々	なぜ	何故	やや	稍
遅れる	おくれる	……しまう	…了う, 終う	など, ら	等	ゆえに	故に
おのおの	各々	十分に	充分に	ならびに	並びに	ようす	様子
おもな	主な	少ない	少い	なるべく	成可く	ように	様に
および	及び	すなわち	即ち, 則ち	はなはだ	甚だ	ようやく	漸く
かえつて	却て	すべて	総て, 全て, 凡て	ページ	頁	わかる	判る, 分る, 解る
かかわらず	拘ず	ずつ	宛, づゝ	ほう(の)	方(の)	わたつて	亙つて
かつ	且	その	其の				
かなり	可成						

## 創立 50 周年記念特別表彰について

本会は創立 50 周年を記念して記念準備委員会内に褒賞小委員会を設け、50周年記念特別表彰について慎重に検討を重ねてまいりましたが、下記のごとく決定いたしましたのでお知らせいたします。なお表彰は4月6日(火)開催の創立50周年記念式典の際に行なわれます。

### 1. 俵 賞 (金牌および副賞)

本賞は俵国一博士の遺徳を讃え、創立 50 周年を記念して設けられたもので、内外を問わず鉄鋼業の進歩発達または学術、技術の研究開発に画期的功績があり、国際的に声誉ある者に授けられます。第1回の俵賞受賞者は下記の通りであります。

#### 俵賞受賞者

東京大学名誉教授、前会長

三 島 徳 七 君

### 2. 製鉄功労賞 (賞状および賞牌)

本賞はわが国鉄鋼業の進歩発達または学術技術の研究開発に特別の功労のあつた者に授与されます。受賞者は下記の通り。

#### 製鉄功労賞受賞者

住友金属工業株式会社専務取締役

小 田 助 男 君

大阪製鋼株式会社会長

高 石 義 雄 君

株式会社神戸製鋼所社長

外 島 健 吉 君

日本鋼管株式会社常務取締役

富 山 英 太 郎 君

科学技術庁金属材料技術研究所長

橋 本 宇 一 君

富士製鉄株式会社副社長広畑製鉄所長

平 世 将 一 君

東北大学名誉教授

的 場 幸 雄 君

株式会社日本製鋼所社長

柳 武 君

八幡製鉄株式会社副社長

湯 川 正 夫 君

### 3. 協会事業功労者

本賞は本会事業推進のため特別の功労のあつた者に授与されます。受賞者は下記の通り。

#### 協会事業功労賞受賞者

トピー工業株式会社専務取締役

伊 木 常 世 君

三菱製鋼株式会社大島製作所副所長

内 山 道 良 君

日本鋼管株式会社取締役技術部長

桂 寛 一 郎 君

東京工業大学教授

作 井 誠 太 君

八幡製鉄株式会社常務取締役

武 田 喜 三 君

早稲田大学理工学部教授

長谷川 正 義 君

日本鉄鋼協会参与

橋 本 芳 雄 君

東京大学工学部教授

松 下 幸 雄 君

富士製鉄株式会社取締役中央研究所副所長

村 田 巖 君



# 服部賞, 香村賞, 俵論文賞, 渡辺三郎賞, 渡辺義介賞, 渡辺義介記念賞 受賞者について

本会におきましては、表彰規程により表彰選考委員会を設け、昭和40年度標記各賞受賞者の選考を慎重に行ないました結果、下記のごとく決定いたしましたのでお知らせいたします。

なお表彰式は、4月5日(月)開催の第50回通常総会の議事終了後に行なわれます。

服部賞	富士製鉄(株) 取締役広畑製鉄所副所長	田地川 健一 君
香村賞	八幡製鉄(株) 取締役(ミナスジェライス出向)	池田 正 君
俵論文賞	東京大学生産技術研究所 助教授	館 充 君
	〃 助手	中根 千富 君
	〃 助手	金鉄 祐 君
	〃 助手	鈴木 吉哉 君
渡辺三郎賞	大同製鋼(株) 常務取締役	磐城 恒隆 君
渡辺義介賞	前東海製鉄(株) 社長	伊藤 隆吉 君
渡辺義介記念賞	尼崎製鉄(株) 堺製鉄所副所長	青山 芳正 君
	大阪大学理学部教授	池田 重良 君
	八幡製鉄(株) 八幡製鉄所八幡製造所技術部副長	石原 重利 君
	日本鋼管(株) 技術部次長	植木 久 君
	(株) 日本製鋼所室蘭製作所材料企画課長	川口 三郎 君
	東洋鋼板(株) 下松工場技術部副長	久能 一郎 君
	日曹製鋼(株) 研究部長	佐藤 良吉 君
	日本鋼管(株) 富山電気製鉄所長	塩谷 周三 君
	茨城大学工学部教授	相馬 胤和 君
	京都大学工学部教授	平 修二 君
	久保田鉄工(株) 取締役鑄物事業部長	竹中 哲哉 君
	住友金属工業(株) 和歌山製鉄所工程部次長	津田 信二 君
	金属材料技術研究所工業化第1研究室長	中川 龍一 君
	川崎製鉄(株) 技術部長	永石 六雄 君
朝日製鉄(株) 取締役製造部長	山川 正治 君	

## 50周年記念特別講演会開催について

創立50周年記念式典に参加されるアメリカの John Chipman 博士, イタリーの A. Scortecci 博士の両氏に特にお願いして, 4月7日(水) 東京大学法文経2号館31番教室において下記のごとく特別講演会を開催することになりましたので, 多数会員ご来聴下さるようご案内いたします。

記

13:00~ 溶融合金鋼中の非金属性元素に関する熱力学的研究

Prof. Dr. John Chipman

15:00~ 鉄鋼業の生産と品種の将来への提言

Prof. Dr. Antonio Scortecci

### 第69回講演大会会場案内 (プログラム2ページ略図参照)

	第 1 日 (4月5日)	第 2 日 (4月6日)	第 3 日 (4月7日)
通常総会 表彰式	2号館大講堂 (13:00~14:30)		
第 1 会場	3号館31番教室	3号館31番教室	3号館31番教室
第 2 会場	3号館37番教室	3号館37番教室	3号館37番教室
第 3 会場	2号館21番教室	2号館21番教室	2号館21番教室
第 4 会場	2号館25番教室	2号館25番教室	2号館25番教室
第 5 会場	2号館26番教室	2号館26番教室	2号館26番教室
第 6 会場	3号館36番教室	3号館36番教室	3号館36番教室
第 7 会場	3号館34番教室	3号館34番教室	3号館34番教室
第 8 会場	3号館35番教室	3号館35番教室	3号館35番教室
創立50周年記念式典		安田講堂 (13:00~17:00)	
特別講演会			法文経2号館31番教室 (13:00~15:00)

# 50周年祝賀会会場および見学会集合場所

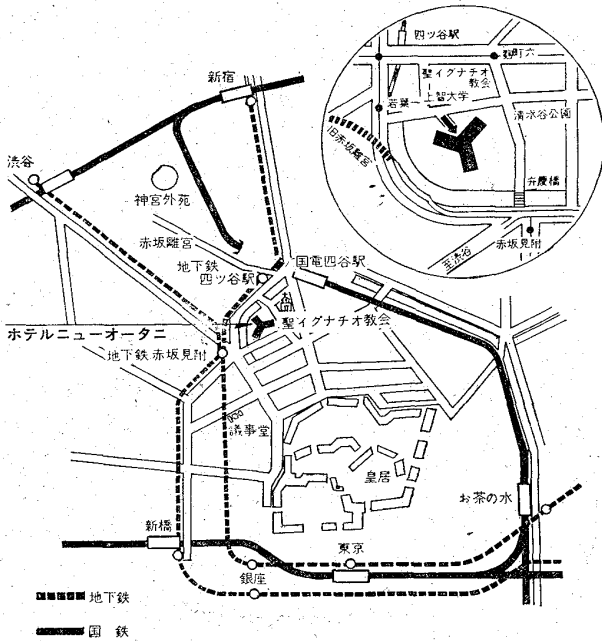
50周年祝賀会の会場および見学会集合場所の略図は下記の通りですので、50周年祝賀会、見学会に参加の方は間違いなく、定刻までにご集合下さるようお知らせいたします。

なお、見学会第1班の集合場所は日立駅前です。

## 50周年祝賀会会場付近略図

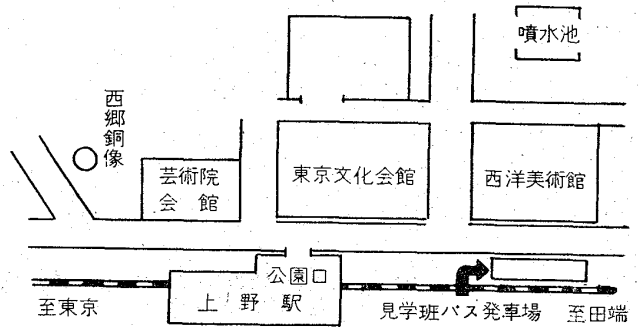
### 乗物

国電四ツ谷駅  
地下鉄(丸の内線)  
四ツ谷駅、赤坂見付駅 } 下車いずれも徒歩5分

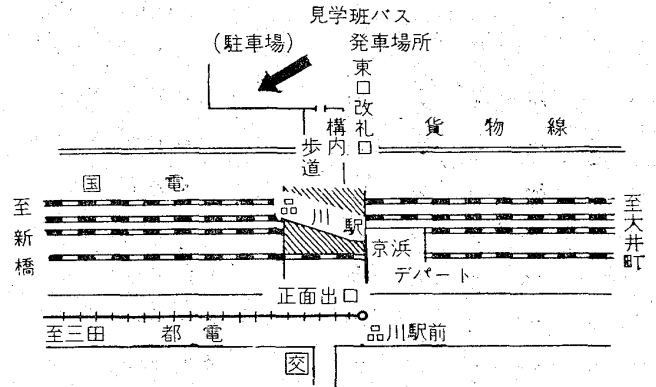


## 見学会集合場所付近略図

### 第2班～第5班集合場所 (上野駅公園口前)



### 第6班～第12班 (品川駅海岸口前)



### 第13班～第14班 (新宿駅西口前)

